

RENESAS TECHNICAL UPDATE

〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24 豊洲フォレシア

ルネサス エレクトロニクス株式会社

問合せ窓口 <https://www.renesas.com/jp/ja/support/contact/>

製品分類	MPU & MCU	発行番号	TN-RL*-A0107A/J	Rev.	第1版
題名	誤記訂正通知 RL78/G1D ユーザーズマニュアル Rev.1.30 の記載変更		情報分類	技術情報	
適用製品	RL78/G1D グループ	対象ロット等	関連資料	RL78/G1D ユーザーズマニュアルハードウェア編 Rev.1.30 R01UH0515JJ0130 (Mar.2018)	
		全ロット			

RL78/G1D ユーザーズマニュアル ハードウェア編 Rev.1.30 (R01UH0515JJ0130) において、下記訂正がございます。

今回通知する訂正内容

訂正箇所	該当ページ	内容
8.3.4 リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1 (RTCC1)	p.277	誤記訂正
図8-21 リアルタイム・クロックの読み出し手順	p.290	誤記訂正
図8-22 リアルタイム・クロックの書き込み手順	p.291	誤記訂正
30.5.1 MCU部の消費電流	p.827 ~ p.830	誤記訂正

ドキュメント改善計画

本訂正内容については、次回ユーザーズマニュアル改版時に修正を行います。

ユーザーズマニュアルの訂正一覧

No	訂正内容と該当箇所			本通知での 該当ページ
	ドキュメント No.	和文	R01UH0515JJ0130	
1	8.3.4 リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1(RTCC1)		p.277	p.3
2	図8－21 リアルタイム・クロックの読み出し手順		p.290	p.4
3	図8－22 リアルタイム・クロックの書き込み手順		p.291	p.4
4	30.5.1 MCU部の消費電流		p.827 ~ p.830	p.5 ~ p.7

誤記訂正の該当箇所は、誤）太字下線、正）グレー・ハッチングで記載します。

発行文書履歴

RL78/G1D ユーザーズマニュアル Rev.1.30 誤記訂正通知 発行文書履歴

文書番号	発行日	記事
TN-RL*-A0107A/J	2023年1月19日	初版発行 訂正一覧の No.1 ~ No.4 の誤記訂正（本通知です。）

1. **8.3.4 リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ 1 (RTCC1)**
(p.277)

誤)

図8-5 リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1 (RTCC1) のフォーマット (2/2)

RWST	リアルタイム・クロックのウェイト状態フラグ
0	カウンタ動作中
1	カウンタ値の読み出し、書き込みモード中
RWAITビットの設定が有効であるかを示すステータスです。 カウンタ値の読み出し、書き込みは、このフラグの値が1になっていることを確認したあとに行ってください。	

RWAIT	リアルタイム・クロックのウェイト制御
0	カウンタ動作設定
1	SEC~YEARカウンタ停止設定。カウンタ値読み出し、書き込みモード。
カウンタの動作を制御します。 カウンタ値を読み出し、書き込みを行う際は必ず“1”を書き込んでください。 内部カウンタ（16ビット）は動作を継続するので、1秒以内に読み出しや書き込みを終了し、0に戻してください。 RWAIT = 1に設定後、カウンタ値の読み出し、書き込みが可能（RWST = 1）となるまで最大 f_{RTC} の1クロックの時間がかかります。 注1, 注2 内部カウンタ（16ビット）のオーバフローがRWAIT = 1のときに起きた場合は、オーバフローが起きたことを保持してRWAIT = 0になったあと、カウント・アップします。 ただし、秒カウント・レジスタへの書き込みを行った場合は、オーバフローが起きたことを保持しません。	

正)

図8-5 リアルタイム・クロック・コントロール・レジスタ1 (RTCC1) のフォーマット (2/2)

RWST	リアルタイム・クロックのウェイト状態フラグ
0	カウンタ動作中
1	カウンタ値の読み出し、書き込みモード中
RWAITビットの設定が有効であるかを示すステータスです。 カウンタ値の読み出し、書き込みは、このフラグの値が1になっていることを確認したあとに行ってください。	

RWAIT	リアルタイム・クロックのウェイト制御
0	カウンタ動作設定
1	SEC~YEARカウンタ停止設定。カウンタ値読み出し、書き込みモード。
カウンタの動作を制御します。 カウンタ値を読み出し、書き込みを行う際は必ず“1”を書き込んでください。 内部カウンタ（16ビット）は動作を継続するので、1秒以内に読み出しや書き込みを終了し、0に戻してください。 アラーム割り込みを使用するときに、カウンタの読み出し／書き込みを行う場合は、RTCC0レジスタのCT2~CT0ビットを010B（1秒毎に定周期割り込み発生）にして、RWAIT = 1からRWAIT = 0までの処理を次の定周期割り込みが発生するまでに行ってください。 RWAIT = 1に設定後、カウンタ値の読み出し、書き込みが可能（RWST = 1）となるまで最大 f_{RTC} の1クロックの時間がかかります。 注1, 注2 内部カウンタ（16ビット）のオーバフローがRWAIT = 1のときに起きた場合は、オーバフローが起きたことを保持してRWAIT = 0になったあと、カウント・アップします。 ただし、秒カウント・レジスタへの書き込みを行った場合は、オーバフローが起きたことを保持しません。	

2. 図 8-21 リアルタイム・クロックの読み出し手順(p.290)

誤)

注 STOP モードに移行する前には、必ず RWST = 0 であることを確認してください。

注意 RWAIT = 1 から RWAIT = 0 までの処理を 1 秒以内で行ってください。

備考 秒カウント・レジスタ (SEC)、分カウント・レジスタ (MIN)、時カウント・レジスタ (HOUR)、曜日カウント・レジスタ (WEEK)、日カウント・レジスタ (DAY)、月カウント・レジスタ (MONTH)、年カウント・レジスタ (YEAR) の読み出しの順番に制限はありません。
また、すべてのレジスタを読み出す必要はなく、一部のレジスタのみを読み出しても構いません。

3. 図 8-22 リアルタイム・クロックの書き込み手順(p.291)

誤)

注 STOP モードに移行する前には、必ず RWST = 0 であることを確認してください。

注意 1. RWAIT = 1からRWAIT = 0とするまでを1秒以内で行ってください。

2. カウンタ動作中 (RTCE = 1) にSEC, MIN, HOUR, WEEK, DAY, MONTH, YEARレジスタを書き換える場合は、INTRTCを割り込みマスク・フラグ・レジスタで割り込み処理禁止にしてから書き換えてください。また、書き換え後にWAFGフラグ、RIFGフラグ、RTCIFフラグをクリアしてください。

備考 秒カウント・レジスタ (SEC)、分カウント・レジスタ (MIN)、時カウント・レジスタ (HOUR)、曜日カウント・レジスタ (WEEK)、日カウント・レジスタ (DAY)、月カウント・レジスタ (MONTH)、年カウント・レジスタ (YEAR) の書き込みの順番に制限はありません。また、すべてのレジスタを設定する必要はなく、一部のレジスタのみを書き換えても構いません。

正)

注 STOP モードに移行する前には、必ず RWST = 0 であることを確認してください。

注意 RWAIT = 1 から RWAIT = 0 までの処理を 1 秒以内で行ってください。アラーム割り込みを使用するとき、カウンタ読み出しを行う場合は、RTCC0 レジスタの CT2~CT0 ビットを 010B (1 秒毎に定周期割り込み発生) にして、RWAIT = 1 から RWAIT = 0 までの処理を次の定周期割り込みが発生するまでに行ってください。

備考 秒カウント・レジスタ (SEC)、分カウント・レジスタ (MIN)、時カウント・レジスタ (HOUR)、曜日カウント・レジスタ (WEEK)、日カウント・レジスタ (DAY)、月カウント・レジスタ (MONTH)、年カウント・レジスタ (YEAR) の読み出しの順番に制限はありません。
また、すべてのレジスタを読み出す必要はなく、一部のレジスタのみを読み出しても構いません。

正)

注 STOPモードに移行する前には、必ずRWST = 0であることを確認してください。

注意 1. RWAIT = 1からRWAIT = 0とするまでを1秒以内で行ってください。アラーム割り込みを使用するとき、カウンタ書き込みを行う場合は、RTCC0レジスタのCT2~CT0ビットを010B (1秒毎に定周期割り込み発生) にして、RWAIT = 1からRWAIT = 0までの処理を次の定周期割り込みが発生するまでに行ってください。

2. カウンタ動作中 (RTCE = 1) にSEC, MIN, HOUR, WEEK, DAY, MONTH, YEARレジスタを書き換える場合は、INTRTCを割り込みマスク・フラグ・レジスタで割り込み処理禁止にしてから書き換えてください。また、書き換え後にWAFGフラグ、RIFGフラグ、RTCIFフラグをクリアしてください。

備考 秒カウント・レジスタ (SEC)、分カウント・レジスタ (MIN)、時カウント・レジスタ (HOUR)、曜日カウント・レジスタ (WEEK)、日カウント・レジスタ (DAY)、月カウント・レジスタ (MONTH)、年カウント・レジスタ (YEAR) の書き込みの順番に制限はありません。また、すべてのレジスタを設定する必要はなく、一部のレジスタのみを書き換えても構いません。

4. 30.5.1 MCU 部の消費電流(p.827 ~ p.830)

誤)

30.5.1 MCU部の消費電流

(1) 動作電流

(T_A = -40 ~ +85°C, 1.6 V ≤ V_{DD} = V_{DD_RF} = AV_{DD_RF} ≤ 3.6 V, V_{SS} = V_{SS_RF} = AV_{SS_RF} = 0 V)

項目	略号	条件				MIN.	TYP.	MAX.	単位
動作電流 ^{注1}	I _{DD1}	HS (高速メイン)モード ^{注5}	基本動作	f _{IH} = 32 MHz ^{注2}	V _{DD} = 3.0 V		2.3		mA
			通常動作	f _{IH} = 32 MHz ^{注2}	V _{DD} = 3.0 V		5.2	8.5	mA
					T _A = +85°C ^{注6}		5.7	13.3	μA
							5.8	13.4	μA

注1. V_{DD}に流れる電流です。入力端子をV_{DD}またはV_{SS}に固定した状態での入力リーク電流を含みます。またMAX.値には周辺動作電流を含みます。ただし、A/Dコンバータ、LVD回路、I/Oポート、内蔵ブルアップ／ブルダウン抵抗、データ・フラッシュ書き換え時に流れる電流は含みません。

2. 高速システム・クロック、サブシステム・クロック停止時。
3. 高速オンチップ・オシレータ、サブシステム・クロックは停止時。
4. 高速オンチップ・オシレータ、高速システム・クロックは停止時。超低消費発振（AMPHS1 = 1）設定時。RTC、12ビット・インターバル・タイマ、ウォッチドッグ・タイマに流れる電流は含みません。
5. 動作電圧範囲、CPU動作周波数、動作モードの関係を次に示します。
- HS（高速メイン）モード：2.7 V ≤ V_{DD} ≤ 3.6 V @ 1 MHz ~ 32 MHz
- 2.4 V ≤ V_{DD} ≤ 3.6 V @ 1 MHz ~ 16 MHz
- LS（低速メイン）モード：1.8 V ≤ V_{DD} ≤ 3.6 V @ 1 MHz ~ 8 MHz
- LV（低電圧メイン）モード：1.6 V ≤ V_{DD} ≤ 3.6 V @ 1 MHz ~ 4 MHz
6. 上段の値は方形波入力時、下段の値は発振子接続時。

備考1. f_{MX}：高速システム・クロック周波数（外部メイン・システム・クロック周波数）

2. f_{IH}：高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数
3. f_{SUB}：サブシステム・クロック周波数
4. 「サブシステム・クロック動作」以外のTYP.値の温度条件は、T_A = 25 °Cです。

正)

30.5.1 MCU部の消費電流

(1) 動作電流

(T_A = -40 ~ +85°C, 1.6 V ≤ V_{DD} = V_{DD_RF} = AV_{DD_RF} ≤ 3.6 V, V_{SS} = V_{SS_RF} = AV_{SS_RF} = 0 V)

項目	略号	条件				MIN.	TYP.	MAX.	単位
動作電流 ^{注1}	I _{DD1}	HS (高速メイン)モード ^{注5}	基本動作	f _{IH} = 32 MHz ^{注2}	V _{DD} = 3.0 V		2.3		mA
			通常動作	f _{IH} = 32 MHz ^{注2}	V _{DD} = 3.0 V		5.2	8.5	mA
					T _A = +85°C ^{注6}		5.7	13.3	μA
							5.8	13.4	μA

注1. V_{DD}に流れる電流です。入力端子をV_{DD}またはV_{SS}に固定した状態での入力リーク電流を含みます。HS（高速メイン）モード、LS（低速メイン）モード、LV（低電圧メイン）モード時、電源電流のTYP.値は周辺動作電流を含みません。MAX.値は周辺動作電流を含みます。ただし、A/Dコンバータ、LVD回路、I/Oポート、内蔵ブルアップ／ブルダウン抵抗、データ・フラッシュ書き換え時に流れる電流は含みません。

- サブシステム・クロック動作時、電源電流のTYP.値とMAX.値は周辺動作電流を含みません。ただし、HALTモード時はRTCに流れる電流を含みます。
2. 高速システム・クロック、サブシステム・クロック停止時。
3. 高速オンチップ・オシレータ、サブシステム・クロックは停止時。
4. 高速オンチップ・オシレータ、高速システム・クロックは停止時。超低消費発振（AMPHS1 = 1）設定時。
5. 動作電圧範囲、CPU動作周波数、動作モードの関係を次に示します。
- HS（高速メイン）モード：2.7 V ≤ V_{DD} ≤ 3.6 V @ 1 MHz ~ 32 MHz
- 2.4 V ≤ V_{DD} ≤ 3.6 V @ 1 MHz ~ 16 MHz
- LS（低速メイン）モード：1.8 V ≤ V_{DD} ≤ 3.6 V @ 1 MHz ~ 8 MHz
- LV（低電圧メイン）モード：1.6 V ≤ V_{DD} ≤ 3.6 V @ 1 MHz ~ 4 MHz
6. 上段の値は方形波入力時、下段の値は発振子接続時。

備考1. f_{MX}：高速システム・クロック周波数（外部メイン・システム・クロック周波数）

2. f_{IH}：高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数
3. f_{SUB}：サブシステム・クロック周波数
4. 「サブシステム・クロック動作」以外のTYP.値の温度条件は、T_A = 25 °Cです。

(2) スタンバイ電流

(T_A = -40~+85°C, 1.6 V ≤ V_{DD} = V_{DD_RF} = AV_{DD_RF} ≤ 3.6 V, V_{SS} = V_{SS_RF} = AV_{SS_RF} = 0 V)

項目	略号	条件			MIN.	TYP.	MAX.	単位
HALT電流 ^{注1,2}	I _{DD2}	HS（高速メイン） モード ^{注1}	f _{IH} = 32 MHz ^{注4}	V _{DD} = 3.0 V		0.62	1.86	mA
			f _{IH} = 24 MHz ^{注4}	V _{DD} = 3.0 V		0.50	1.45	mA
			f _{IH} = 16 MHz ^{注4}	V _{DD} = 3.0 V		0.44	1.11	mA
		LS（低速メイン） モード ^{注1}	f _{IH} = 8 MHz ^{注4}	V _{DD} = 3.0 V		290	620	μA
				V _{DD} = 2.0 V		290	620	μA
		LV（低電圧メイ ン）モード ^{注1}	f _{IH} = 4 MHz ^{注4}	V _{DD} = 3.0 V		440	680	μA
				V _{DD} = 2.0 V		440	680	μA
		HS（高速メイン） モード ^{注1}	f _{MX} = 20 MHz ^{注3}	V _{DD} = 3.0 V ^{注9}		0.31	1.08	mA
						0.48	1.28	mA
			f _{MX} = 10 MHz ^{注3}	V _{DD} = 3.0 V ^{注9}		0.21	0.63	mA
						0.28	0.71	mA
		LS（低速メイン） モード ^{注1}	f _{MX} = 8 MHz ^{注3}	V _{DD} = 3.0 V ^{注9}		110	360	μA
						160	420	μA
				V _{DD} = 2.0 V ^{注9}		110	360	μA
						160	420	μA
		サブシステム・ クロック動作	f _{SUB} = 32.768 kHz ^{注5}	T _A = -40°C ^{注8}		0.28	0.61	μA
						0.47	0.80	μA
				T _A = +25°C ^{注8}		0.34	0.61	μA
						0.53	0.80	μA
				T _A = +50°C ^{注8}		0.41	2.30	μA
						0.60	2.49	μA
				T _A = +70°C ^{注8}		0.64	4.03	μA
						0.83	4.22	μA
				T _A = +85°C ^{注8}		1.09	8.04	μA
						1.28	8.23	μA
STOP電流 ^{注6,8}	I _{DD3}	T _A = -40°C				0.19	0.52	μA
		T _A = +25°C				0.25	0.52	μA
		T _A = +50°C				0.32	2.21	μA
		T _A = +70°C				0.55	3.94	μA
		T _A = +85°C				1.00	7.95	μA

- 注1. V_{DD}に流れる電流です。入力端子をV_{DD}またはV_{SS}に固定した状態での入力リーク電流を含みます。またMAX.値には周辺動作電流を含みます。ただし、A/Dコンバータ、LVD回路、I/Oポート、内蔵ブルアップ/ブルダウン抵抗、データ・フラッシュ書き換え時に流れる電流は含みません。
2. フラッシュ・メモリでのHALT命令実行時。
3. 高速オンチップ・オシレータ、サブシステム・クロックは停止時。
4. 高速システム・クロック、サブシステム・クロックは停止時。

(2) スタンバイ電流

(T_A = -40~+85°C, 1.6 V ≤ V_{DD} = V_{DD_RF} = AV_{DD_RF} ≤ 3.6 V, V_{SS} = V_{SS_RF} = AV_{SS_RF} = 0 V)

項目	略号	条件			MIN.	TYP.	MAX.	単位
HALT電流 ^{注1,2}	I _{DD2}	HS (高速メイン) モード ^{注6}	f _{IH} = 32 MHz ^{注4}	V _{DD} = 3.0 V		0.62	1.86	mA
			f _{IH} = 24 MHz ^{注4}	V _{DD} = 3.0 V		0.50	1.45	mA
			f _{IH} = 16 MHz ^{注4}	V _{DD} = 3.0 V		0.44	1.11	mA
		LS (低速メイン) モード ^{注6}	f _{IH} = 8 MHz ^{注4}	V _{DD} = 3.0 V		290	620	μA
				V _{DD} = 2.0 V		290	620	μA
		LV (低電圧メイン) モード ^{注6}	f _{IH} = 4 MHz ^{注4}	V _{DD} = 3.0 V		440	680	μA
				V _{DD} = 2.0 V		440	680	μA
		HS (高速メイン) モード ^{注6}	f _{MX} = 20 MHz ^{注3}	V _{DD} = 3.0 V ^{注8}		0.31	1.08	mA
						0.48	1.28	mA
			f _{MX} = 10 MHz ^{注3}	V _{DD} = 3.0 V ^{注8}		0.21	0.63	mA
				0.28	0.71	mA		
		LS (低速メイン) モード ^{注6}	f _{MX} = 8 MHz ^{注3}	V _{DD} = 3.0 V ^{注8}		110	360	μA
						160	420	μA
				V _{DD} = 2.0 V ^{注8}		110	360	μA
						160	420	μA
		サブシステム・クロック動作	f _{SUB} = 32.768 kHz ^{注5}	T _A = -40°C ^{注9}		0.28	0.61	μA
						0.47	0.80	μA
				T _A = +25°C ^{注9}		0.34	0.61	μA
						0.53	0.80	μA
				T _A = +50°C ^{注9}		0.41	2.30	μA
						0.60	2.49	μA
				T _A = +70°C ^{注9}		0.64	4.03	μA
						0.83	4.22	μA
				T _A = +85°C ^{注9}		1.09	8.04	μA
				1.28	8.23	μA		
STOP電流 ^{注7}	I _{DD3}	T _A = -40°C				0.19	0.52	μA
		T _A = +25°C				0.25	0.52	μA
		T _A = +50°C				0.32	2.21	μA
		T _A = +70°C				0.55	3.94	μA
		T _A = +85°C				1.00	7.95	μA

- 注1. V_{DD}に流れる電流です。入力端子をV_{DD}またはV_{SS}に固定した状態での入力リーク電流を含みます。HS (高速メイン) モード、LS (低速メイン) モード、LV (低電圧メイン) モード時、電源電流のTYP.値は周辺動作電流を含みません。MAX.値は周辺動作電流を含みます。ただし、A/Dコンバータ、LVD回路、I/Oポート、内蔵ブルアップ/ブルダウン抵抗、データ・フラッシュ書き換え時に流れる電流は含みません。
- サブシステム・クロック動作時、電源電流のTYP.値とMAX.値は周辺動作電流を含みません。ただし、HALTモード時はRTCに流れる電流を含みます
- STOPモード時、電源電流のTYP.値とMAX.値は周辺動作電流を含みません。

5. 高速オンチップ・オシレータ、高速システム・クロックは停止時。RTCLPC = 1, かつ超低消費発振 (AMPHS1= 1) 設定時。RTCに流れる電流は含みます。ただし、12ビット・インターバル・タイマ、ウォッチドッグ・タイマに流れる電流は含みません。
6. リアルタイム・クロック、12ビット・インターバル・タイマ、ウォッチドッグ・タイマに流れる電流は含みません。
7. 動作電圧範囲、CPU動作周波数、動作モードの関係を次に示します。
 HS (高速メイン) モード : $2.7\text{ V} \leq V_{DD} \leq 3.6\text{ V}@1\text{ MHz} \sim 32\text{ MHz}$
 $2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 3.6\text{ V}@1\text{ MHz} \sim 16\text{ MHz}$
 LS (低速メイン) モード : $1.8\text{ V} \leq V_{DD} \leq 3.6\text{ V}@1\text{ MHz} \sim 8\text{ MHz}$
 LV (低電圧メイン) モード : $1.6\text{ V} \leq V_{DD} \leq 3.6\text{ V}@1\text{ MHz} \sim 4\text{ MHz}$
8. STOPモード時にサブシステム・クロックを動作させる場合は、サブシステム・クロック動作のHALTモード時と同じになります。
9. 上段の値は方形波入力時、下段の値は発振子接続時。

備考1. f_{MX} : 高速システム・クロック周波数 (外部メイン・システム・クロック周波数)

2. f_{IH} : 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数
3. f_{SUB} : サブシステム・クロック周波数
4. 「サブシステム・クロック動作」, 「STOP モード」以外の TYP.値の温度条件は, $T_A = 25\text{ }^\circ\text{C}$ です。

2. フラッシュ・メモリでのHALT命令実行時。
3. 高速オンチップ・オシレータ、サブシステム・クロックは停止時。
4. 高速システム・クロック、サブシステム・クロックは停止時。
5. 高速オンチップ・オシレータ、高速システム・クロックは停止時。RTCLPC = 1, かつ超低消費発振 (AMPHS1= 1) 設定時。
6. 動作電圧範囲、CPU動作周波数、動作モードの関係を次に示します。
 HS (高速メイン) モード : $2.7\text{ V} \leq V_{DD} \leq 3.6\text{ V}@1\text{ MHz} \sim 32\text{ MHz}$
 $2.4\text{ V} \leq V_{DD} \leq 3.6\text{ V}@1\text{ MHz} \sim 16\text{ MHz}$
 LS (低速メイン) モード : $1.8\text{ V} \leq V_{DD} \leq 3.6\text{ V}@1\text{ MHz} \sim 8\text{ MHz}$
 LV (低電圧メイン) モード : $1.6\text{ V} \leq V_{DD} \leq 3.6\text{ V}@1\text{ MHz} \sim 4\text{ MHz}$
7. STOPモード時にサブシステム・クロックを動作させる場合は、サブシステム・クロック動作のHALTモード時と同じになります。
8. 上段の値は方形波入力時、下段の値は発振子接続時。

備考1. f_{MX} : 高速システム・クロック周波数 (外部メイン・システム・クロック周波数)

2. f_{IH} : 高速オンチップ・オシレータ・クロック周波数
3. f_{SUB} : サブシステム・クロック周波数
4. 「サブシステム・クロック動作」, 「STOP モード」以外の TYP.値の温度条件は, $T_A = 25\text{ }^\circ\text{C}$ です。

以上